



採択大学等名

大阪大学

連携市町村

飯舘村、大熊町、双葉町

事業理念と目的

理念

- 2011年3月11日の東日本大震災に関する情報には、マスコミやインターネット上に科学的知識と乖離した風評も含まれており、正確な情報を見極めることの重要性があらためて認識された。
- 地域や社会の課題を「正しく見て、感じて、考える」力を養い、科学的かつ多角的な視点で捉える知識と思考力を身につけることを重視するとともに、単なる科学的理解にとどまらず、豊かな想像力と能動的な創造力を発揮し、主体的に問題解決に取り組む人材の育成が重要である。

目的

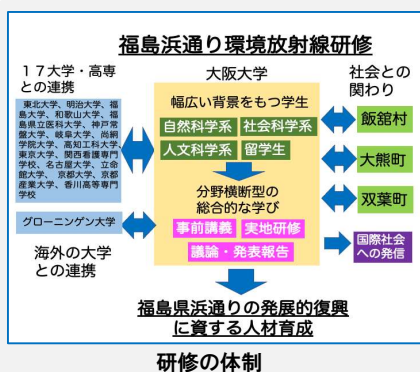
- 福島浜通り環境放射線研修では、学年・専攻・国籍を問わず多様な学生が福島浜通りを自ら訪れ、環境放射線の測定や地元住民との意見交換を通じて、震災の実情や復興に伴う社会的課題を体験的に学ぶ機会を提供する。
- 継続的な人材育成により、直接・間接を問わず福島に対する問題意識を持つ人材を社会に輩出し、将来的に福島の発展的復興に貢献する。

取組概要

座学と実習準備(大阪大学・東北大学)



- 放射線の物理・化学、社会と放射線
- 放射線の人体影響
- 東京電力福島第一原発事故について
- 試料採取と放射線測定方法の実習
- 学生間の議論

実地研修スケジュール
(2025年8月大熊町の例)研修参加者 (2024年8月、大熊町の
大阪大学福島拠点にて)

実地研修



植物・土壌採取、環境放射線測定

- 各採取場所で植物の葉や果実、土壌を採取
- 現地で各自が処理して測定試料を作成
- 空間線量計による線量マップ作成



被害を受けた現場を視察

- 東京電力福島第一原子力発電所、被害の爪痕が残る帰還困難区域、中間貯蔵施設を見学
- 震災の当時の状況や現在の復興にいたる過程、様々な社会問題を自分の目で確かめる



地元の方との意見交換

- 地域の方々と顔を合わせ直接対話し、震災当時の状況、復興への想いや現状を知る

試料・土壌の放射線測定

- 採取した植物・土壌をNaI検出器でγ線測定し、放射能濃度 [Bq/kg] を算出
- 植物と土壌の線量について比較考察
- 線量を数値を通して科学的に分析



振り返り議論

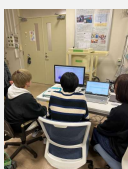
- その日に見たこと経験したことを班ごとに振り返り、情報や想いの共有、議論を深める

総括



成果報告会

- 10月に大阪で実施
- 実習中に話し合った内容や結果を各班ごとにまとめて発表、研修全体で共有



発展放射線実習

- 測定しきれなかった試料を大学に持ち帰り、ゲルマニウム半導体検出器を用いて測定、より深く考察

訪問自治体への報告
国際社会への発信

- 飯舘村、大熊町、双葉町で住民を招いて最終報告
- グローニンゲン大学（オランダ）にて学生シンポジウム開催

派生した研修

国際浜通り研修

11カ国の大学から派遣された学生・教員が浜通りにおいて環境放射線研修を行い福島の現状を知る

社会技術研修

研修会に多数参加経験のある学生向けに実施、各個人が事前に「問い」を設定し、浜通りを訪問後にその考えを発表

めばえ適塾
in 浜通り研修

小中高生向け研究者育成プログラムの「めばえ適塾」と大熊町の「学び舎ゆめの森」の連携、将来を担う次世代人材の育成

学生活動班

全国から「浜通り研修」に参加した学生がさらなる活動の充実を目指して活動中

科学班

植物への放射能移行や環境放射線についての影響を、研修より深く掘り下げて研究

観光班

「正しい発信者になる」ことを目標に活動を始める。地理情報システム (GIS) を使ったストーリーマップ作成など観光復興活動を展開

キウイ班

「毎月大熊町に滞在して課題を抽出しその解決策を検討する」ことを目標に活動を始める。大熊町での営農再開および再ブランド化の取り組みなど

これまでの成果

蓄積した測定データの考察

- 毎年行う放射能測定結果により各研修地で線量の減衰が認められている

大阪大学福島拠点の開設

- 福島拠点に常駐の職員2名を配置し研修、学生活動班を現地から支援
- 発展的復興に資する人材育成拠点
- 福島キャンパスを見据えた、国際的に活躍できる人材を福島県浜通り地域において育成・輩出する体制の構築

クラウドファンディングを実施

- 2025年2月に実施、多く的一般の方々が活動を直接支援



今後の展開

- 今年度の研修は、昨年度に大熊町に開設した大阪大学福島拠点を中心に飯舘村・大熊町・双葉町で開催。(8月、9月)
- これまでの大学生への教育を発展継続しながら、社会からの求めに応じて小中高校の教員や一般社会人への教育事業として研修内容の充実を図る。
- 「浜通り研修」に参加した学生の更なる活動を支援し、学生の自主性と創造性を生かした啓発活動、地域貢献活動の展開を促進する。

最後に、事業を支援していただいている飯舘、大熊、双葉をはじめとする浜通りの各自治体の方々、および福島イノベ機構「復興知」事業の取り組みに感謝します。